



中間報告書

平成25年4月1日から平成25年9月30日まで

第 **10** 期

大陽日酸株式会社

(証券コード 4091)

企業理念

進取と共創。ガスで未来を拓く。

シンボルマーク



大陽日酸
The Gas Professionals

行動指針

私たちは、

進取 あなたの声を敏感にとらえ、

共創 ガステクノロジーを通じて、あらゆる産業と共に、

未来 豊かな社会の実現に貢献します。

スローガン

The Gas Professionals

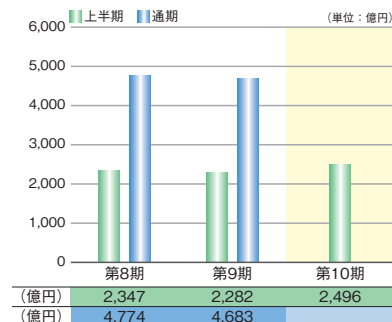
産業ガスのプロ集団になる、そして業界でNo.1のプロ、
第一人者であることを目指します。

最先端の技術と自然の融合、そして酸素、窒素、アルゴンなど高度なガスコントロール技術で創り上げる「大陽日酸」の企業ドメインを象徴するこのシンボルは、高品質でクリーンな透明感のある、明るい未来への広がりを表現しています。

目次

● 企業理念	1
● 株主の皆さまへ	2
● 製品別の動向（連結）	3,4
● 連結財務諸表	5
● トピックス	6,7
● 事業紹介（水素プロジェクト）	8
● 会社概要	9
● 役員	9
● 株式の状況	10
● 株価および売買高の推移	10

■ 売上高



● 株主の皆さまへ

株主の皆さまには、平素から当社の事業運営に格別のご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成25年度上半期（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）の業績についてご報告いたします。

当上半期における世界経済は、米国は緩やかな景気回復が見られる中で財政不安を抱え、欧州経済は低迷継続、また、中国やインドを中心とする新興国においても経済成長が鈍化するなど、全般に力強さを欠いた状況のまま推移いたしました。

また、わが国経済は、政府・日銀による金融緩和策に伴う円安、株高を背景として輸出産業を中心に企業業績の改善が見受けられるものの、電力料金や原材料価格の上昇などもあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の下、当上半期の当社業績は、売上高2,496億21百万円（前年同期比9.4%増加）、営業利益143億96百万円（同14.6%増加）、経常利益141億99百万円（同17.9%増加）、純利益122億29百万円（前年同期は純損失79億10百万円）となりました。

当期の中間配当につきましては、上記業績を勘案し前期同様1株につき6円とさせていただきます。

当社は、平成25年9月26日に株式会社三菱ケミカルホールディングスと資本業務提携契約を締結するとともに、当社に対して第三者割当による新株式の発行および自己株式の処分を行いました。

同社とは、今後幅広い分野で連携強化を図ってまいります。

株主の皆さまにおかれましては、当社に対しまして引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年12月

代表取締役社長

田邊信司



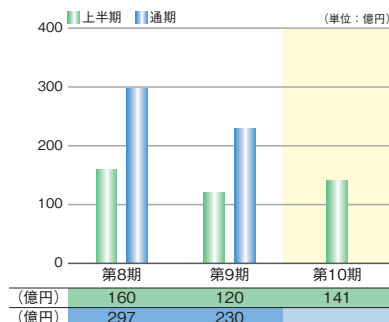
代表取締役会長

田口 博

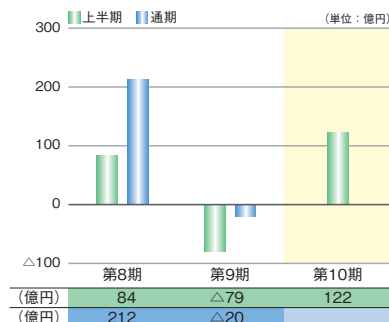
代表取締役社長

田邊信司

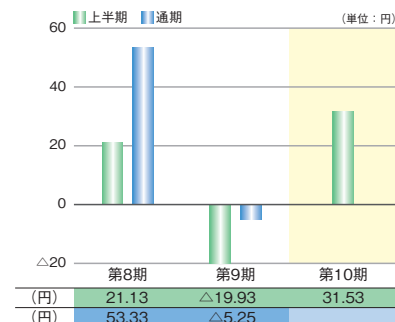
■ 経常利益



■ 上半期（当期）純利益



■ 1株当たり上半期（当期）純利益



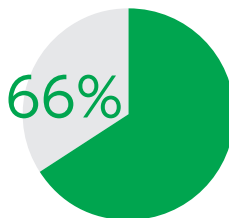
製品別の動向（連結）

■産業ガス関連事業

国内事業では、化学産業向けでやや減速感はあるものの、主要ユーザーである鉄鋼向けは堅調を維持し、オンサイト供給の酸素、窒素の売上高は前年同期を上回りました。一方、液供給の酸素、窒素、アルゴンは、ユーザー業界における全般的な需要減少により、出荷数量、売上高ともに前年同期を下回り、また、機械装置については、受注案件の減少から、前年同期を大幅に下回りました。海外事業では、北米での売上高は景気回復を反映して前年同期を上回り、また、アジア地域では、新規連結効果も加わって売上高は前年同期を大きく上回りました。

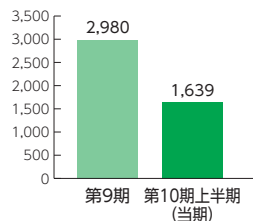
以上の結果、産業ガス関連事業の売上高は、1,639億92百万円（前年同期比10.6%増加）となりましたが、営業利益は、国内の産業ガス生産数量の減少に伴うコスト上昇および機械装置の利益率低下により、106億53百万円（同5.2%減少）となりました。

連結売上高に占める
当セグメントの割合



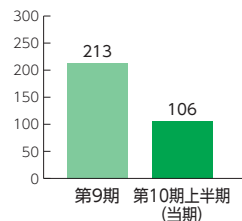
■売上高

(単位：億円)



■営業利益

(単位：億円)



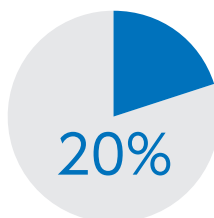
「空気分離装置」

■エレクトロニクス関連事業

エレクトロニクス産業向けの需要は、全般的に低迷が継続する中、一部で好転の兆しも見えはじめ、電子材料ガス、電子関連機器・工事および半導体製造装置の売上高は、低水準であった前年同期を上回りました。

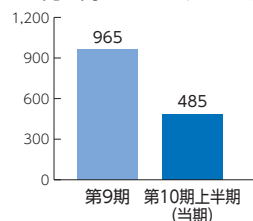
以上の結果、エレクトロニクス関連事業の売上高は、485億53百万円（前年同期比5.2%増加）、営業利益は22億13百万円（前年同期は営業損失6億2百万円）となりました。

連結売上高に占める
当セグメントの割合



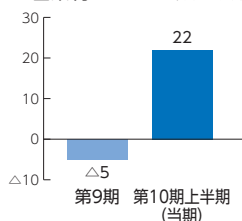
■売上高

(単位：億円)



■営業利益

(単位：億円)



「トータル・ガス・センター」

※トータル・ガス・センターとは、エレクトロニクス関連の製造工場に高純度窒素ガスをはじめとした各種ガスをパイプライン・配送等によって供給する拠点の呼称。

■エネルギー関連事業

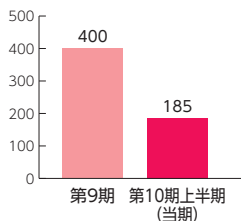
LPガスは、春先から夏場にかけて平均気温が高かったことから民生用等の需要が減少しましたが、円安等の影響による仕入コストの上昇から、売上高は増加しました。以上の結果、エネルギー関連事業の売上高は、185億36百万円（前年同期比6.4%増加）、営業利益は6億30百万円（同18.4%減少）となりました。

連結売上高に占める
当セグメントの割合



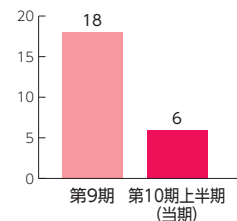
■売上高

(単位：億円)



■営業利益

(単位：億円)



「LPガスのバルクローリー車」

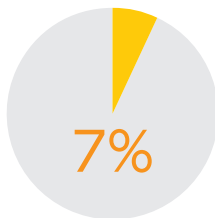
■その他事業

メディカル関連事業では、機器の売上高は堅調に推移しましたが、医療用酸素は数量・売上ともに前年同期を下まわりました。

サーモス事業は、猛暑によりスポーツボトル等の販売が好調に推移し、売上高は前年同期を大きく上回りましたものの、円安の影響により仕入コストも上昇しました。

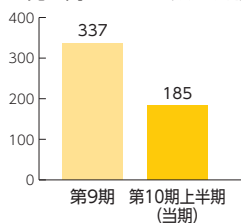
以上の結果、その他事業の売上高は、185億38百万円（前年同期比13.2%増加）、営業利益は15億11百万円（同14.8%減少）となりました。

連結売上高に占める
当セグメントの割合



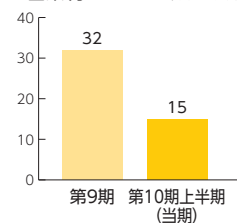
■売上高

(単位：億円)



■営業利益

(単位：億円)



「サーモス社のフードコンテナー」

連結財務諸表

■連結貸借対照表【要旨】

「当上半期(平成25年9月30日現在)」

(単位：百万円)

科 目	金 額
資 産 の 部	
流動資産	209,963
固定資産	442,835
有形固定資産	291,847
無形固定資産	66,580
投資その他の資産	84,407
資産合計	652,799
負 債 の 部	
流動負債	201,556
固定負債	195,804
負債合計	397,360
純 資 産 の 部	
株主資本	234,634
資本金	27,039
資本剰余金	44,910
利益剰余金	171,871
自己株式	△9,186
その他の包括利益累計額	△2,375
その他有価証券評価差額金	9,031
繰延ヘッジ損益	△167
為替換算調整勘定	△11,014
在外子会社の年金債務調整額	△224
少数株主持分	23,179
純資産合計	255,438
負債純資産合計	652,799

■連結損益計算書【要旨】

「当上半期(平成25年4月1日～平成25年9月30日)」

(単位：百万円)

科 目	金 額
売上高	249,621
売上原価	167,250
売上総利益	82,371
販売費及び一般管理費	67,974
営業利益	14,396
営業外収益	2,711
営業外費用	2,908
経常利益	14,199
特別利益	6,954
特別損失	1,071
税金等調整前四半期純利益	20,083
法人税、住民税及び事業税	4,089
法人税等調整額	3,110
法人税等合計	7,199
少数株主損益調整前四半期純利益	12,883
少数株主利益	653
四半期純利益	12,229

■連結キャッシュ・フロー計算書【要旨】

「当上半期(平成25年4月1日～平成25年9月30日)」

(単位：百万円)

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	22,561
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,652
財務活動によるキャッシュ・フロー	△10,952
現金及び現金同等物に係る換算差額	799
現金及び現金同等物の増減額	4,755
現金及び現金同等物の期首残高	22,721
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	3,568
現金及び現金同等物の四半期末残高	31,045

トピックス

株式会社三菱ケミカルホールディングスと 資本業務提携契約を締結

当社は、本年9月26日に株式会社三菱ケミカルホールディングスと資本業務提携契約を締結するとともに、同社に対して第三者割当による新株式の発行および自己株式の処分を行いました。今後は、株式会社三菱ケミカルホールディングスグループが計画する新たな国内および海外拠点へのパイピングによるガス供給や両社の保有する販売チャンネルの相互活用等について、ワーキンググループを立ち上げて具体的な連携検討を進めてまいります。

また、第三者割当てで調達した資金は、シェール革命により石油化学産業等で設備投資が活発になっている北米および当社がトップ・シェアを持つベトナム・フィリピンにおける空気分離装置や水素製造装置等の設備投資資金、ならびに北米およびアジアでのディストリビューターやローカルガスメーカーの買収など事業規模拡大のための戦略的投融資に充当する予定です。

第三者割当による新株式発行および自己株式処分の概要

発行新株式	:	30,000,000株
処分自己株式	:	15,096,000株
発行価額および処分価格	:	1株につき687円
発行期日および処分期日	:	平成25年10月15日
調達資金の額	:	30,980,952,000円

「水-¹⁸O」製造プラント2号機竣工

当社は、「酸素-18 安定同位体標識水(水-¹⁸O)」製造プラント2号機を本年6月に竣工しました。今後、大幅に拡大が見込まれるポジトロン断層撮影診断(PET)用診断薬の原料としての世界需要に対応してまいります。

PETによるガン診断は、18FDG-PET検査の日米欧での市場拡大のみならず、中東・アジア・南米などの新興国での診療開始も加わり、年々増加してまいりました。「水-¹⁸O」はこのPET診断薬18FDGの原料としての需要が拡大し2012年の世界市場は700kg/年を超えました。今後は、PET検査数は年率約5~10%で増加することが見込まれています。さらに、脳疾患や心疾患のPET診断用新規薬剤開発が加速しており、それらが普及するとPET検査数は大幅に増加し、「水-¹⁸O」の世界市場は倍増すると予測されています。

「水-¹⁸O」製造プラント2号機(200kg/年)と現有の製造プラント1号機(100kg/年)をあわせ、総生産量は300kg/年と世界最大規模の生産体制となります。

これにより、拡大する「水-¹⁸O」の世界市場への安定供給を目指します。

- ・新設プラント概要
- ①生産能力 水-¹⁸O 200kg/年 (98atom%)
- ②設置場所 株式会社千葉サンソセンター 袖ヶ浦工場構内
- ③出荷開始予定 2013年11月



「水-¹⁸O製造プラント2号機」

パシフィックメディコ社を買収

当社は、本年10月に医療機器製造販売業者であるパシフィックメディコ株式会社の株式を全株取得いたしました。

当社の医療ビジネスは、医療ガス、関連設備・機器の製造、販売および在宅酸素療法等の医療機器の販売等を中心として展開しています。医療ビジネスにおける中長期計画の一つとして「メーカーとしての基盤強化」を掲げており、M&Aや商品開発等の事業戦略を推進しています。

パシフィックメディコ社は、呼吸ケア領域の幅広いニーズに対応した開発、商品展開を得意とし、積極的な事業展開を図っています。特に、在宅人工呼吸器（気管切開患者向け）では国内トップシェアであり、輸入品を中心とした製品ラインアップを持つとともに、製造工場の買収によりメーカーポジションも強化するなど、呼吸ケア事業での豊富な経験と実績を有しています。

今般、同社を買収したことで、人工呼吸器等の高度医療機器ビジネスへ本格参入し、呼吸ケア事業領域の拡大を狙います。また、同社は睡眠時無呼吸症の診断装置開発および診断・治療環境の整備にも注力しており、今後睡眠ケア事業の強化も図ってまいります。



パシフィックメディコ社の商品
左から「胸腹部を覆う人工呼吸器」、「高機能型陽圧人工呼吸器」

インドネシア・サマトール社との産業ガス 合併事業会社設立

当社は、インドネシア最大手の産業ガスメーカーであるPT. SAMATOR GROUP（以下サマトール社）と、当社シンガポール現地子会社であるNational Oxygen Private Limitedの3社でインドネシア・ジャワ島にて産業ガス合併事業会社を設立することで本年8月に合意しました。

インドネシア市場は、東南アジア有数の人口・経済規模を有し、安定的且つ高水準な経済成長率で推移しています。日系企業による積極的な設備投資が集中しており、自動車関連を中心として産業ガス需要の増加が見込まれます。幅広い産業ガス製造・販売ネットワークを有する現地最大手のサマトール社と、当社グループが有する多様な産業ガスの供給・応用技術、その他ノウハウを融合し、きめ細かいサービスを展開して、当社にとって新たな市場となるインドネシアでの産業ガスビジネスを拡大してまいります。



「サマトール社チビトン工場」

● 事業紹介 (水素プロジェクト)

クリーンなエネルギー社会を目指して、 私たちは、水素プロジェクトに取り組んでいます。

走行時にCO₂を全く排出しない次世代自動車として、電気自動車（EV）とともに燃料電池自動車（FCV）が注目されています。このFCVの燃料となる水素ガスを供給するのが水素ステーションと呼ばれる設備です。私たちは、FCVの普及に向けた国家プロジェクトに取り組んでおり、これまで定置式の水素ステーション・移動式の水素ステーションを開発してまいりました。

2015年からのFCVの一般販売を国内の自動車メーカー各社が計画しており、水素ステーションのインフラ整備が急務となっておりますが、水素ステーションのコストダウンが大きな課題となっております。当社は、この課題に取り組み、従来型の約1/2のコストダウンを実現したパッケージ型水素ステーション（商品名：ハイドロ シャトル）を開発しました。さらにハイドロ シャトルは、コンパクト化も実現し、定置式水素ステーションとしてだけでなく、車両に搭載することで移動式水素ステーションとしても利用可能です。今後パッケージ型水素ステーションを中心に拡販を目指し、FCVおよび水素ステーションの普及に貢献してまいります。



「定置式水素ステーション(東京都・千住)」



「既存の移動式水素ステーション」



「今回開発した移動式水素ステーション」
(ハイドロ シャトル搭載)



「ハイドロ シャトル」

● 会社概要 (平成25年9月30日現在)

- **商号** 大陽日酸株式会社
(英文名称: TAIYO NIPPON SANSO CORPORATION)
- **創業日** 明治43年10月30日
- **設立日** 大正7年7月19日
- **資本金** 270億3,987万7,254円
- **従業員数** 連結: 12,138名
単体: 1,390名
- **本社** 〒142-8558
東京都品川区小山一丁目3番26号
TEL03-5788-8000
- **支社** 東北支社、北関東支社
関東支社、中部支社
関西支社、中四国支社
九州支社
- **事業所** 京浜事業所、川崎事業所
つくば事業所、山梨事業所
川崎水江事業所
- **関係会社** 連結子会社: 145社
持分法適用会社: 29社
非連結・持分法非適用会社: 133社

● 役員 (平成25年9月30日現在)

- | | |
|-------------|------------|
| 代表取締役会長 | 田 口 博 |
| 代表取締役社長 | 田 邊 信 司 |
| 代表取締役副社長 | 間 邦 司 |
| 取締役副社長 | 丸 山 忠 重 |
| 取締役副社長 | 市 原 裕 史 郎 |
| 専務取締役 | 山 野 佳 員 |
| 専務取締役 | 天 田 茂 |
| 専務取締役 | ウィリアム クロール |
| 常務取締役 | 勝 又 宏 |
| 常務取締役 | 水之江 欣 志 |
| 常務取締役 | 梅 川 明 彦 |
| 常務取締役 | 平 峯 信 一 郎 |
| 常務取締役 | 有 賀 敬 記 |
| 取締役 | 川 口 恭 史 |
| ※1 取締役(非常勤) | 吉 村 章 太 郎 |
| 常勤監査役 | 藤 田 清 |
| ※2 常勤監査役 | 宮 崎 泰 史 |
| ※2 常勤監査役 | 湯 本 一 郎 |
| ※2 常勤監査役 | 吉 田 和 夫 |

(注) 1. ※1は社外取締役であります。
※2は社外監査役であります。

(注) 2. 当社は、常勤監査役宮崎泰史氏および湯本一郎氏を東京証券取引所の上場管理規程に基づく独立役員として指定し、同取引所にその旨を届け出ております。

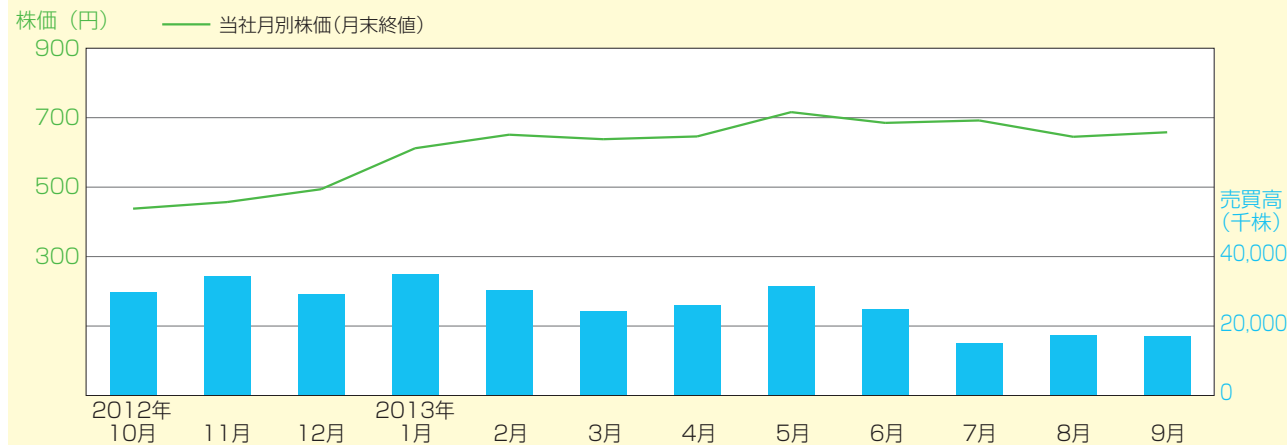
●株式の状況 (平成25年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 1,600,000,000株
- 発行済株式の総数 403,092,837株
- 株主数 22,723名
- 大株主(上位10社)

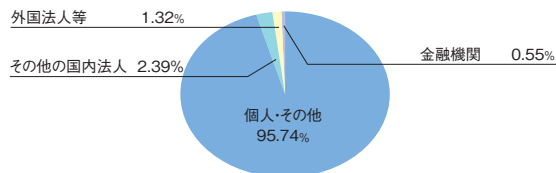
株主名	当社への出資状況	
	持株数	持株比率
	千株	%
三菱化学株式会社	60,947	15.71
JFEスチール株式会社	25,254	6.51
大陽日酸取引先持株会	20,847	5.37
株式会社みずほ銀行	16,365	4.22
明治安田生命保険相互会社	16,007	4.13
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	12,272	3.16
全国共済農業協同組合連合会	11,034	2.84
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	10,783	2.78
農林中央金庫	10,000	2.58
第一生命保険株式会社	7,537	1.94

- (注) 1. 持株比率は、自己株式(15,097,955株)を控除して計算しており、また、小数点第3位を四捨五入しております。
 2. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 3. 平成25年10月15日に効力を生じた第三者割当による新株発行により、同日現在での発行済株式の総数は433,092,837株となっております。

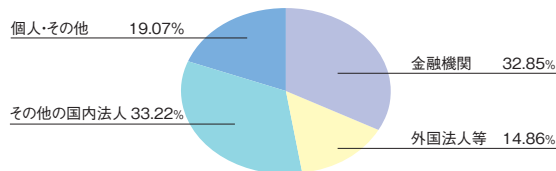
●株価および売買高の推移



●所有者別分布状況(株主数別) (小数点第3位を四捨五入)



●所有者別分布状況(株式数別) (小数点第3位を四捨五入)



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年の3月31日まで
 定時株主総会 6月に開催
 基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 期末配当 3月31日
 中間配当 9月30日
 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 みずほ信託銀行株式会社

株式事務に関するご案内

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵送物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝休日を除く9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等)	お取引の証券会社等になります。	みずほ証券 本店、全国各支店および営業所 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)でもお取扱致します。 *カスタマーブラウザでは、お取扱できませんのでご了承下さい。 みずほ信託銀行 本店および全国各支店 *トラストラウンジでは、お取扱できませんのでご了承下さい。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行およびみずほ銀行 本店および全国各支店	(みずほ証券では、取次のみとなります。)
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。
公告方法	当社ホームページ (http://www.tn-sanso.co.jp) に掲載します。 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。	
上場金融商品取引所 証券コード 単元株式数	株式会社東京証券取引所 4091 1,000株	

株主の皆さまの声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 4091

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com



大陽日酸
The Gas Professionals

〒142-8558 東京都品川区小山1-3-26
TEL (03) 5788-8000 (大代表)
<http://www.tn-sanso.co.jp>